

第3回四日市港港湾脱炭素化推進協議会 開催結果概要

1 日時

令和6年3月4日（月） 13:30～15:00

2 場所

四日市港ポートビル2階大会議室（WEB併用）

3 議事概要

- ・太平洋セメント(株)及び(株)日本政策投資銀行の当協議会への新規加入について承認した。
- ・事務局から、スケジュール、第2回協議会及びパブリックコメントでの主なご意見等と対応、四日市港港湾脱炭素化推進計画（最終案）について説明した。委員から1点修正の提案があり、修正のうえ、公表に向けた準備を進めることとした。
- ・民間事業者及び四日市港管理組合の取組報告を行った後、意見交換を行った。

4 主な意見概要

- ・港湾における脱炭素化の促進に資する将来の構想の事業名「代替エネルギー船の導入」について、「2050年にほぼすべてのフリートを代替燃料船でカバー」との記載があるが、「2050年までに排出量ネットゼロ」との記載の方が適切ではないか。
- ・昨年度設立された本協議会の前身となる四日市港CNP協議会から参加させていただいている。第1回CNP協議会開催時には、どのように脱炭素化に取り組むか皆さん手探り状態だったと思うが、特に港湾脱炭素化協議会に移行してからは、熱心かつ非常に積極的な取組の話を聞くことが出来るなど、協議会の開催を重ねるごとに議論の精度が上がってきたように感じている。
- ・カーボンニュートラルに取り組んでいくうえで、コストが非常にかかると思う。そういったところをバックアップしていただける金融機関の加入というのは非常に心強いものだと感じている。
- ・今後もさらに新たな委員等が増えて、より良い相乗効果が生まれ、最終的にはこの四日市港の競争力が高まるという要因になればと期待している。
- ・計画を作っただけでは意味をなさないので、今後、定期的に進捗状況のチェックを行い、必要に応じて計画を見直すとともに、可能であればさらに

前に攻めるといような方向性をもって進んでいただきたい。

- 脱炭素化推進地区の指定について、積極的な取組であり、非常に高く評価できると思う。
- 計画作成がゴールではなく、スタートラインであると認識していただきたい。計画作成後、これをいかに実践していくかがこれからの課題となり、引き続き委員の皆様の協力が必要。四日市港の取組が、全国の模範となるようなものになればと期待している。
- 近年、企業のブルーカーボンを通じた社会貢献に対するニーズが高まっており、国土交通省港湾局では、企業に対して活動の場を斡旋したり、藻場・干潟等に関する豊富な知見を有するNPOを仲介したりするなど、担い手となる主体のマッチング支援を行っている。先導的事例として徳山下松港の取組があるが、四日市港に係る企業も国土交通省のマッチング支援を検討頂ければと思う。

以上。